

教育関係者のニーズ把握による河川を利用した総合的な学習における河川関係者等の役割について*

A study about the role of the persons in “The Periods for Integrated Study” which used the river at the case of the needs of the school persons concerned *

花岡 史恵**、澤田 俊明***、上月 康則****、山中 英生*****、湯佐 昭二*****
By Fumie HANAOKA Toshiaki SAWADA Yasunori KOZUKI Hideo YAMANAKA Syouzi YUSA

1. はじめに

平成14年度からの「総合的な学習」の時間の導入に伴い、一層、学校教育と身近な地域社会や環境との関わりが重要視されて来っており、教育分野と教育分野を取り巻く種々の専門分野の連携が不可欠になってきた。

平成8年度より実施されている国土交通省の水辺の楽校プロジェクトでは、①子どもたちの水辺遊びを支える地域連携体制の構築、②自然環境あふれる安全な水辺の創出、といった目的を掲げ、水辺の楽校の登録制度推進により、地域の川づくりの支援を行っている。また、文部科学省、国土交通省、環境省の連携プロジェクトである『『子どもの水辺』再発見プロジェクト』においては、地域市民団体、教育関係者、河川管理者等が、一体となって、子どもの水辺活動における支援を行う連携組織を整備している。前者の水辺の楽校プロジェクトでは、平成15年2月現在で、220箇所の登録がされており、登録されているそれぞれの川の活動では、地域のNPOやボランティア団体、教育関係者、河川管理者等との連携を図りつつ、子どもたちの川での活動を支援している。現在、徳島県においても、吉野川水系の2箇所が、水辺の楽校に登録されており、河川を利用した活動を展開している。

河川を対象にした教育分野に関する報告としては、河川における活動を類型化の中で河川における教育活動の方向性を示唆した松浦らの報告¹、河川環境教育の視点から河川情報の還元や公開方法を提示した清野らの論文²、これからの教育における体験の場としての河川空間について述べた嶋野の報告³、水辺での環境教育のあり方の方向性を事例により紹介した帆足の報告⁴、環境教育における河川教材開発を示した藤岡の報告⁵、河川管理者と地方自治体が河川情報資料施設を整備し総合的な学習への学習展開や支援体制を示した八木の報告⁶、など多岐にわた

っている。しかしながら、河川教育に関する多くの報告は、個別の調査報告や個別の事例紹介、将来への展望などであり、現場の学校関係者のニーズ調査をもとにした調査研究は少ない。

本研究では、吉野川をフィールドにした「川に学ぶ社会」実現にむけての情報交流・人的交流の場として企画開催された一連の学習交流ワークショップに焦点をあて、これらの一連の学習交流ワークショップを通して、河川を利用した総合的な学習における現場の学校関係者のニーズを抽出整理し、今後の河川利用における河川関係者および大学関係者を含む専門家等の役割についての一考察を行うものである。

2. 学習交流ワークショップ

(1) 背景と目的

本研究における一連の学習交流ワークショップの企画にあたり、大学関係者・河川関係者・教育関係者・専門家等から構成される10名規模の「環境と川と教育を考える研究会」（以下、研究会と略記）が平成12年10月に組織された。研究会では、学習交流ワークショップの開催目的として、①今後の吉野川流域での教育分野と河川分野の新たな関係づくりの基礎となること、②吉野川を題材にした総合的な学習の計画・実施・人材育成等に資すること、③吉野川における総合的な学習の場に供する河川整備や管理等の計画・実施・人材育成等に資すること、が位置づけられた。また、学習交流ワークショップの開催により、現場における学校関係者のニーズを抽出整理し、今後の河川利用における河川関係者等の役割についての考察を行うものである。

(2) 学習交流ワークショップの活動の経過

学習交流ワークショップは、「環境と川と教育を考える研究会」の主催により、平成12年2月から平成13年8月に4回の「研究会」、平成14年1月に徳島県下小中学校「アンケート調査」、平成14年2月～3月に小中学校「ヒアリング調査」、平成14年3月23日、24日に「吉野川をフィールドにした総合的な学習交流会」が企画開催された。表1に、「環境と川と教育を考える研究会」による吉野川をフィールドにした活動経過を示す。表2に、研究会会員の構成比と研究会および学習交流会の参加者合計の構成比を示す。

*キーワード：学習交流ワークショップ、河川利用、総合的な学習

**正員、環境とまちづくり（徳島県勝浦郡上勝町大字福原字川北30番地、TEL 08854-4-6290、FAX 08854-4-6291）

***正員、工博、日本建設コンサルタント徳島営業所（徳島市吉野本町1-14、TEL 088-655-3248、FAX 088-655-4763）

****正員、工博、徳島大学大学院工学研究科（徳島市南常三島町2-1、TEL088-656-7335、FAX088-656-7335）

*****正員、工博、徳島大学工学部建設工学科（徳島市南常三島町2-1、TEL088-656-7350、FAX088-656-7341）

*****国土交通省徳島河川国道事務所（徳島市上吉野町3-35、TEL088-654-2211）

表-1 学習交流ワークショップの活動と経過

年月日	活動名	活動概要	参加者等
H.12 10.13(金)	「環境と川と教育を考 える研究会」準備会	【テーマ】吉野川上板町1敷きの「利用・整備」について教育関係者との連携について検討	大学関係者2名、河川関係者 1名、その他1名、計4名
H.12 10.23(月)	「環境と川と教育を考 える研究会」発足会	【テーマ】吉野川上板町1敷きの「利用・整備」について教育関係者との連携について検討 ①準備会での検討事項を徳島県教委と交えて検討 ②「研究会」の発足について検討	教育関係者1名、大学関係者 2名、河川関係者2名、そ の他1名、計6名
H.12 12.21(木)	【名称】第1回研究会 【場所】上板町教育委員会	【テーマ】河川の教育的利用の可能性と課題、【検討フィールド】上板町内の身近な川・吉野 川・上板町1敷、【内容】ワークショップ方式により議論	教育関係者12名、大学関係 者5名、河川関係者3名、そ の他2名、計22名
H.13 2.2(金)	【名称】第2回研究会 【場所】上板町教育委員会	【テーマ】川を教材にした総合的な学習の計画づくり(その1)、【検討フィールド】上板町 内の身近な川・吉野川・上板町1敷、【内容】「気づき」調査「発表」話し合い「提案」「行 動」のうち「気づき」調査に関する計画づくりのアイデア抽出	教育関係者11名、大学関係 者6名、河川関係者5名、そ の他2名、計24名
H.13 2.27(火)	【名称】第3回研究会 【場所】上板町教育委員会	【テーマ】川を教材にした総合的な学習の計画づくり(その2)、【検討フィールド】上板 町内の身近な川・吉野川・上板町1敷、【内容】検討フィールドごとにプランづくりのアイデ アを抽出	教育関係者10名、大学関係 者2名、河川関係者5名、そ の他3名、計20名
H.13 8.16(火)	【名称】第4回研究会	【テーマ】上板町1敷の整備イメージについて、【検討フィールド】上板町内の身近な川・吉 野川・上板町1敷、【内容】現地調査を行い、河川敷の空間整備のあり方・必要な施設・整 備における参加の可能性等についての意見交換を行った	教育関係者11名、大学関係 者5名、河川関係者6名、そ の他3名、計25名
H.14 3.16(土)	【名称】水環境学会発表会 【場所】岡山大学	【テーマ】吉野川における学習交流会の取り組みについて、【内容】これまでの第1回～第4 回研究会の活動、および今後の活動について、A3版16枚のポスター展示	
H.14 1.10～31	【名称】徳島県下小中学校 アンケート調査	【対象】徳島県全県下の小中学校328校対象、257校の回答(回答率78%)、【アンケート項目】 河川を利用した総合的な学習について設問	257校の回答
H.14 2月～3月	【名称】小中学校ヒアリン グ調査	【対象】アンケート調査より、河川を利用した総合的な学習が実施されている主な小中学校の うちの小学校9校、中学校3校の計12校をヒアリング	12校実施
H.14 3.23(土)	【名称】吉野川学習交流会 (1日目)	【テーマ】河川と総合的な学習、【主要プログラム】小中学校アンケート結果報告、総合的な 学習の事例報告、話題提供(川をフィールドにした総合的な学習の視点と課題)、ワークショ ップによる意見交換、情報交換会	教育関係者12名、大学関係 者5名、河川関係者5名、そ の他17名、計39名
H.14 3.24(土)	【名称】吉野川学習交流会 (2日目)	【テーマ】河川学習におけるリスクマネジメント、【主要プログラム】課題提供(河川学習に おけるリスクマネジメント)事例から見る安全対策、ワークショップによる検討	教育関係者2名、大学関係 者5名、河川関係者6名、そ の他12名、計25名

表-2 研究会会員および参加者合計の構成比

分野	会員構成比	参加者合計構成比
大学関係者	47%(7名)	19%(32名)
河川関係者	20%(3名)	20%(33名)
教育関係者	13%(2名)	36%(59名)
専門家等	20%(3名)	25%(41名)

3. 第1回～第4回研究会

(1) 第1回～第4回研究会の概要

研究会活動は、平成12年2月から平成13年8月に4回の研究会が企画開催された。第1回～第3回の研究会では、身近な川・吉野川・吉野川上板町1敷を検討フィールドとしてワークショップ方式により開催された。第4回では、吉野川・泉谷川を検討フィールドとしてワークショップ方式により開催された。検討内容を表3に、検討結果の抜粋を表4～表6に示す。

表-3 研究会での検討内容

研究会	主要検討内容
第1回研究会 H.12.12.21(木)	・河川の教育的利用の可能性と課題
第2回研究会 H.13.2.2(金)	・河川をフィールドにした総合的な学習プランづくり における「気づき」調査について、のアイデア抽出
第3回研究会 H.13.2.27(火)	・河川をフィールドにした総合的な学習のプランづくり のアイデア抽出
第4回研究会 H.13.8.16(火)	→視察 ・徳島県上板町内の河川及び吉野川の上板町1敷の見学 →検討 ・河川敷きの空間整備のあり方・河川敷に必要な施設 ・河川整備における学校関係者の参加の可能性・ 吉野川上板町1敷きの施設について・吉野川上板町1 敷きでの教育について

(2) 研究会のまとめ

第1回研究会では、河川の教育的利用の可能性と課題をテーマに検討を行った。共通意見としては、表4に示すとおり「自分たちの生活と結びついた観点から川と人との関係を知ること」や、「楽しみながら学習できること」を河川の教育的利用としてあげており、「安全面への情報収集や対策」が課題としてあげられた。

第2回研究会では、河川をフィールドにした総合的な学習のプランづくりのアイデア抽出をテーマに検討を行った。共通意見としては、表5に示すとおり「現地を体験して気づきを発見すること」を「気づきのアイデア」としてあげており、「現地調査・環境調査・地域との関わり」等が「調査のアイデア」としてあげられた。

第3回研究会では、河川をフィールドにした総合的な学習のプランづくりのアイデア抽出をテーマに検討を行った。共通意見としては、表6に示すとおり、テーマに沿ってのインターネット検索や図書館等での調査に加え、専門家や地域の人等の協力と交流による、川と自分たちの生活に関連したプランづくりの必要性があげられた。

第4回研究会では、実際に徳島県上板町内の河川と吉野川の上板町1敷の見学を行い、①上板町内河川敷および吉野川上板町1敷の空間整備のあり方、②上板町内河川敷および吉野川上板町1敷に必要な施設、③河川整備における学校関係者の参加の可能性、等について検討した。共通意見として、①河川敷の空間整備のあり方としては、安全な空間として、できるだけ自然のままの空間

表-4 第1回研究会の検討結果抜粋

検討テーマ	参加者の意見
河川の教育的利用の可能性と課題	
身近な川	・どうして今のこういう水質になってしまったのかを調べる。 ・水中生物やゴミも含め自分の興味のあることを楽しみながら調査する。 ・良い場所ありながら子供たちを連れて行くには危ない。安全面に対する調査が必要。 ・川の遊び、気づいた事から課題を見つける。 ・水の中の色々なことについての知識がないので、情報を提供して欲しい。 ・雑草などが生い茂っていると川に入れない。 ・大人の便利さと子供たちの活動面で相反することが起きている。
吉野川	・川との関わりを歴史から見るのも必要。 ・河川敷には色々な施設があるが全部断絶しており、使われていないところも多い。 ・吉野川は、滞在型の観光や青少年のスポーツ施設など観光施設としても大きな資源である。少し手を加えるだけで、スポーツ・レジャーや学習の場になる。 ・吉野川を使ってどういった植物が水質を浄化しているのかを楽しみながら調査したい。 ・生活排水やゴミなど自分たちの生活と結びつけて水質がどうかを考えたい。 ・子供たちに川に興味を持ってもらいたいが、川の中に連れて行くことは危険な面もある。それらをこれから一緒に考えていきたい。
上板河川敷	・上板河川敷でどのような生物が生息しているかを観察する。 ・遊びでも観察でも色々な事で楽しみながら学習できる場。 ・堀場などどうしても治水の上から草刈をしないとダメな。河川敷ではそうした必要がないので、荒地からどんな植物がどのように生えてくるか実験的に調べても面白い。

表-5 第2回研究会の検討結果抜粋

検討テーマ	参加者の意見
「気づき」「調査」についてのアイデア抽出	
身近な川	【気づき】 ・技の館周辺の草が復活してきたのはなぜか？ ・技の館周辺の川辺は、どうして今のような形で整備されたのか？ ・平常時の水かさがないのはなぜか？ ・川の水かさより下を流れているのはなぜか？ ・用水に水のある時期とない時期があるのはどうしてか？ ・私達の身近にある川は、どこから流れてくるのか？ ・化石の採集 【調査】 ・「環境問題」に対する調査 ・「防災・景観」に対する調査 ・「川と地域」に対する調査
吉野川	【気づき】 ・吉野川上流から下流までの環境問題 ・ゴミがリバーにあるのはなぜか？ ・吉野川の生き物はどんなものがあるのか？ ・吉野川と植物 ・吉野川の砂州や堀場などの形状が変化していることを気づかせてほしい 【調査】 ・情報を集める ・行動・活動する ・活動の目的は何か？
上板河川敷	【気づき】 ・大声を出して走る ・川で遊ぶ ・なまじりで泳いではいけませんか？ ・動物館物を知る ・青空教室・青空給食 ・アドプトプランの実践 ・ゴミの様子 ・子ども達が何に気づくのか知りたい 【調査】 ・「地域の環境」を知るための調査 ・「地域の昔」を知るための調査 ・「地域の人々」を知るための調査

整備をあげ、②河川敷に必要な施設では、スポット的な観察ポイントや簡素な休憩施設の整備、また、安全なアプローチのための歩道整備等があげられた。③河川整備における学校関係者の参加の可能性としては、空間整備の構想および計画段階から、ゴミ拾いや草むしり等の美化活動等の各種活動まで、行政に任せきりではなく、また学校関係者の参加だけでなく、子どもたち、地域の人々や専門家等との協働の必要性があげられた。それらを通して、研究会における主要意見は、①川の歴史や背景を探る、②生活と結びついた川の間接関係を調査する、③川に生息する生物について学習する、④楽しみながら学習する、⑤安全対策を考える、⑥情報収集を行う、の6つの意見に集約された。

表-6 第3回研究会の検討結果抜粋

検討テーマ	参加者の意見
プランづくりのアイデア抽出	
身近な川	・子供たちの気づいたものを抽出 ・生き物調査→専門家に聞く ・河川全般の調査→地域の人に聞く ・河川の利用、環境、生き物について話し合う ・昔の川に戻す ・生き物を通して他地域と交流する ・全体を通して私たちの上板を良くしたい
吉野川	・吉野川の素晴らしさを知ること ・体験や遊びによって調べる楽しさを知る ・吉野川についての人材バンクをつくる ・インターネット等より情報入手する ・人との交流を図る
上板河川敷	・テーマを決める一例え、植物の育ち ・テーマに沿って、インターネット、図書館等で調べる ・地域の人に教えてもらう ・川と植物等と地形の関係を調べる ・もっと調べたいこと、関連して調べたいこと、関心があることについて中間発表しながら継続して学習する

4. 小中学校アンケートおよびヒアリング調査

(1) アンケート調査

「吉野川学習交流会」に先駆け、平成14年1月に実施した徳島県下の小中学校を対象としたアンケート調査の概要と調査項目を表7に示す。アンケート調査では、問4において、回答者の40%が総合的な学習に河川を利用しており、その内、問10の総合的な学習のための資料収集において、やや不足している・不足していると答えた人が62%となっている。また、問18の川を題材にした総合的な学習に関する学校間交流の場を必要と答えた人が75%、問20の河川管理者との交流の場を必要と答えた人が69%を占めている。その中でも、問19の学校間交流の期待としては、「授業の計画や運営手法の情報」が35%を占め、問21の河川管理者との交流への期待としては、「河川情報の提供」が38%、「授業への協力者情報」が30%を占めている。また、問25の総合的な学習を進める上における苦労点として、「授業の計画段階と答えた人」が43%を占めている。これらを総合的に判断すると、川を題材にし

た総合的な学習では、授業の計画段階において、①川を題材とした総合学習に関する学校間交流を必要としている、②学校間交流への期待がある、③河川管理者との交流の場を必要としている、④河川管理者との交流への期待がある、の4つの意見が特徴づけられた。

表-7 アンケート調査の概要と調査項目

アンケート調査実施	平成14年1月10日～1月31日
アンケート調査対象	徳島県下全小中学校328校
アンケート調査回答数	257校 (回答率78%)
アンケート調査項目	28項目 (以下に示す)
問1. 学校名 問2. 総合学習の担当 問3. 担当教科 問4. 川を題材にした総合学習の有無 問5. 主として利用している川 問6. 現地での主な使用場所 問7. 使用している川への訪問頻度 問8. 総合的な学習のテーマ 問9. 資料収集の場 問10. 総合学習のための資料収集 問11. 学校以外の協力者の有無 問12. 協力者の種類 問13. 学校以外の必要な協力者 問14. 必要な資料 問15. 集めにくい資料 問16. 総合学習のための他の学校との交流 問17. 総合学習のための他の学校との交流の場 問18. 川を題材とした総合学習に関する学校間交流の場 問19. 学校間交流への期待 問20. 河川管理者との交流の場の必要性 問21. 河川管理者との交流への期待 問22. 川の危険と思われる場所 問23. 川の使用における必要な安全対策 問24. 安全対策に関する管理 問25. 総合学習を進める上での苦労点 問26. 総合学習を進める上での難しい点 問27. 川を題材とした総合学習に関する自由意見 問28. 吉野川をフィールドにした総合的な学習交流会への参加	

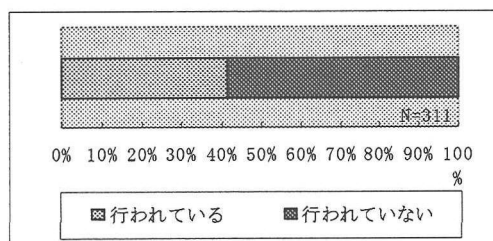


図1 問4. 川を題材にした総合的な学習 の回答

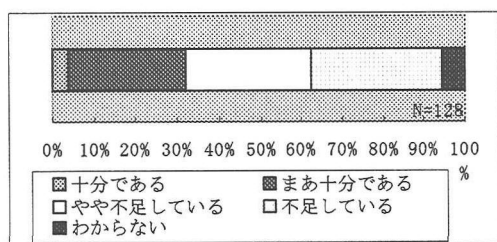


図2 問10. 総合的な学習のための資料収集 の回答

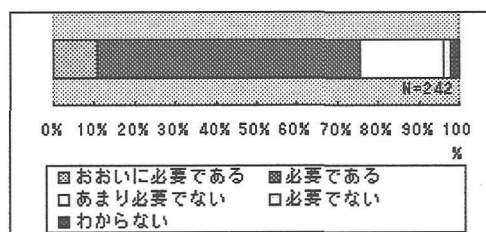


図3 問18. 川を題材にした総合的な学習に関する学校間交流 の回答

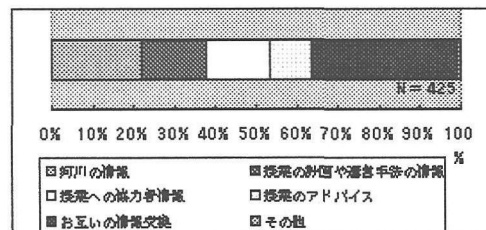


図4 問19. 学校間交流への期待 の回答

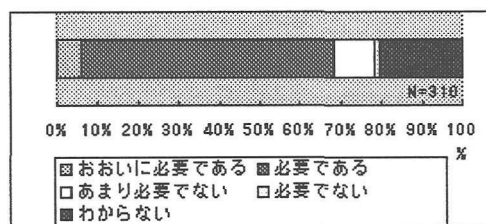


図5 問20. 河川管理者との交流の場の必要性 の回答

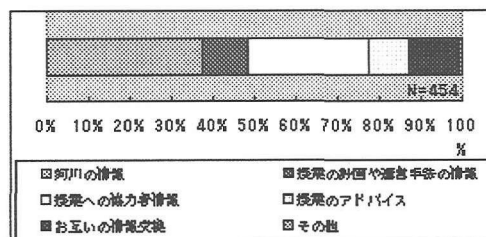


図6 問21. 河川管理者との交流への期待 の回答

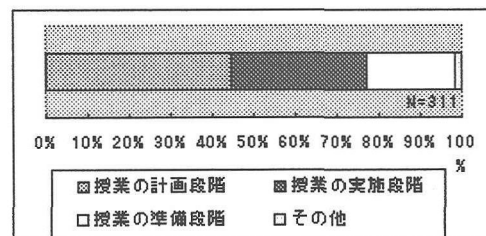


図7 問25. 総合的な学習を進める上での苦労点 の回答

(2) ヒアリング調査

前出のアンケート調査後に、総合的な学習に河川を利用している主な小中学校について行った個別のヒアリング調査の調査項目を表8に示す。

ヒアリング調査では、河川を利用した総合的な学習が実施されている小中学校12校を訪問し、学習内容・学習成果のまとめ・学習による子供たちの変化・河川関係者や地域住民との関わり等についての意見を収集した。学習内容では、子供たちの自主性による「気づき」を重視し、学習成果のまとめ方についても子供たちの考える力を伸ばすための指導を心がけていることが伺えた。また、総合的な学習による子供たちの変化では、川とのふれあいにより、ふるさと意識の向上と、川や川を取り巻く自然を大切に思う気持ちや、川を汚さない習慣が、育まれているという意見が大半を占めていた。ヒアリング調査における意見を集約すると、①子ども達の「気づき」を重視する、②子ども達の「考える力」を伸ばすための指導を行う、③子ども達の「ふるさと意識」を向上させる、④川や川を取り巻く自然に対する「思いやりの心」を育てる、⑤川を「汚さない習慣」を身につけさせる、⑥学校外の人にゲストティーチャーとしての関わりを持ってほしい、の6つの意見が特徴づけられた。

表-8 ヒアリング調査項目

- ・主に利用している川の場合
- ・川を題材にした総合的な学習の対象学年
- ・川を題材にした総合的な学習の内容
- ・学習の成果のまとめ方
- ・学習による子供たちの変化
- ・総合的な学習の学習指導計画書
- ・河川関係者や地域住民との関わりについて
- ・学習交流会への参加
- ・学習交流会での発表の可否

5. 吉野川学習交流会

平成14年3月に2日間にわたり、表9に示すプログラムで「吉野川学習交流会」が開催された。当日の学習交流会では、【川をフィールドにした総合的な学習の視点と課題】・【河川学習におけるリスクマネジメント】をテーマ

表-10 学校関係者のニーズ整理

	A 情報	B 交流の場	C リスクマネジメント	D 教育の参加
研究会	・インターネットによる情報収集が必要である ・図書館での情報収集が必要である ・地域の情報が必要である ・地域の人の情報が必要である	・地域の人との交流の場が必要である ・河川関係者との交流の場が必要である	・安全対策を考える ・川への安全なアプローチを整備する	・河川計画段階からの教育関係者および地域住民等の参加が必要である
アンケート	・情報が不足している ・情報収集が必要である	・学校間交流の場が必要である ・河川管理者との交流の場が必要である	・安全に対する管理が必要である	・授業の計画段階からの河川関係者等の参加が必要である
ヒアリング	・河川関係者が持っている情報を知りたい	・地域の人との交流の場が必要である ・河川関係者との交流の場が必要である	・安全についての知識が必要である	・学校外の人にゲストティーチャーとしての関わりを持ってほしい
学習交流会	・情報収集が必要である ・情報交換が必要である	・情報収集や情報交換のための交流の場が必要である	・リスクマネジメントに対する意識と知識が必要である	・関係者全体の協力、連携による参加が必要である

マにしたワークショップ方式等の交流会、徳島県下の小中学校を対象とした【総合的な学習空間としての河川に関するアンケート調査】による課題の共有、【全国の環境教育・野外教育の資料・取り組みなどの情報】・【総合的な学習に関する河川情報ホームページ紹介】などの情報交流会等が開催された。学習交流会における主要意見としては、①子ども達の「気づき」を重視する、②子ども達の「自ら学ぶ力」を養成する、③河川利用における「情報収集」の必要性がある、④河川利用のための「情報交換」の必要性がある、⑤河川利用のためのリスクマネジメントに対する意識と知識が必要である、の5つの観点に意見が集中した。

表-9 吉野川学習交流会のプログラム

1日目： 平成14年 3月23日 (土)	◇学習交流会—1 河川と総合的な学習：13:00 開会／13:10 総合的な学習空間としての河川(徳島県下の小中学校アンケート結果報告)／13:30 川をフィールドにした総合的な学習の事例／15:00 学習交流会—1 (川と教育)・テーマ：川をフィールドにした総合的な学習の視点と課題・話題提供及び学習交流会(ワークショップ方式)／17:30 閉会 ◇情報交流会 河川と教育の情報交流：19:00 情報交換会(総合的な学習に関する河川情報、他)
2日目： 平成14年 3月24日 (日)	◇学習交流会—2 リスクマネジメント(無料) 09:30 楽しみながら体験教育ゲーム 10:15 学習交流会—2 (リスクマネジメント)・テーマ：河川学習におけるリスクマネジメント・話題提供及び学習交流会(ワークショップ方式) 12:30 閉会

6. 考察

(1) 学校関係者のニーズ

吉野川をフィールドにした「川に学ぶ社会」実現にむけての情報交流・人的交流の場として企画開催された一連の学習交流ワークショップにおいて、徳島県下の小中学校における学校関係者のニーズを抽出し整理した。学習交流ワークショップでは、「研究会」「アンケート調査」「ヒアリング調査」「学習交流会」の4つの活動が行われ、それらの実施により得られた意見等を「情報」「交流の場」「リスクマネジメント」「教育の参加」の4つのキーワードごとに抽出し、整理した。その結果を表10に示す。

(2) 河川関係者や専門家等に求められる役割

学校関係者のニーズの抽出と整理より、河川関係者や専門家等に求められる役割について、考察を行った。学校関係者が求めているA「情報」、B「交流の場」、C「リスクマネジメント」、D「教育の参加」に対応するために、河川関係者および専門家等の役割について、表11に示す。

表-11 キーワードによる河川関係者等の役割

キーワード	河川関係者等の役割
A 情報	・ 地域情報の集積を行う ・ 地域人材情報の集積を行う ・ HPや機関紙等による情報交換の仕組みづくりを行う ・ 地域の人とのよりよい連携のための登録制による人材バンクの作成を行う
B 交流の場	・ 学習交流会開催等による人的交流の機会づくりを行う
C リスクマネジメント	・ 日本赤十字社や消防局等における安全知識の集積を行う
D 教育の参加	・ 総合的な学習における計画段階からの協働の促進 ・ 川づくりにおける計画段階から参画できるシステムの構築 ・ 各種活動時における連携組織を確立する

表11に示すように、学校関係者のニーズと現場で学習する子どもたちの活動を支援するために、河川関係者および専門家等は、学校関係者や地域住民および地域ボランティア等との、①交流と情報交換の場の設定、②総合的な学習における計画段階からの協働の促進、③各種活動時における連携組織の確立、④川づくりにおける計画段階から参画できるシステムの構築、⑤地域の人とのよりよい連携のための登録制による人材バンクの作成、などを推進し、常に「交流と連携」を継続させる「場づくり」を実行していくことが求められている。また、河川関係者および専門家等は、「場づくり」活動により個々の河川の個性や魅力を発見するとともに、水辺の楽校プロジェクト等の既存する各種事業の推進や各種支援組織との連携を深め、子どもたちの安全な川辺の学習、川の環境改善、川を通した人づくり等に継続発展できる「地域の組織づくり」の基礎固めを行う役割を担っていると考えられる。さらに、本研究における吉野川上板河川敷を始め、徳島県内を流れる雄大な吉野川流域において、総合的な学習として利用できる河川空間のあり方、またその整備方法等を、学校関係者や地域の人々と協働し、画一化したものではなく、それぞれの地域性を活かした取り組み方を形成していく必要があると考える。

7. おわりに

本研究では、研究会・アンケート調査・ヒアリング調査・学習交流会による一連の学習交流ワークショップの企画開催を通して、教育関係者のニーズを抽出し整理を行ったことにより、教育関係者と河川関係者等との連携の必要性が再確認された。また、特にアンケート調査やヒアリング調査等では、総合的な学習の計画段階においての、河川関係者・地域住民の情報および協力の必要性が明らかになったことや、河川関係者側の河川整備計画段階における、教育関係者および地域住民の参加要請等の必要性により、これからの河川関係者等は、学校教育と社会や地域をつなぐパイプ役として位置づけられることになる。今後の課題として、各関係者の連携における「情報交換をスムーズに図る仕組みづくり」、「リスクマネジメント知識を深める機会づくり」、「連携活動を継続させるための人的交流の機会づくり」、が重要となる。本研究における一連の学習交流ワークショップの企画にあたり組織された「環境と川と教育を考える研究会」では、その後、「学習交流会の開催」「リスクマネジメント講習」などの実施により、教育関係者・河川関係者が連携した活動を継続して実施している。今後も、具体的な河川利用の推進のための地域の人材バンク作成や協力体制が組める地域ボランティアの調査等を行い、既存する各種事業の活用と推進により、河川を利用した総合的な学習に役立つ地域における組織づくりの基礎固めを行う活動を展開していきたいと思う。

¹ 松浦茂樹・島谷幸宏：『都市域に望まれる河川像に関する研究（その2）—かわと人々の活動のかかわり方—』、建設省土木研究所資料・第2223号、1985年3月

² 清野聡子・濱田隆士、宇多高明：河川事業の遂行上取得された各種資料を有効活用した河川環境教育手法、環境システム研究 vol.27、p.p.135-146、1999年10月

³ 嶋野道弘：子供と水辺 これからの教育と豊かな体験の場としての河川、河川 599号、p.p.16-19、1996年

⁴ 帆足美保子：水辺で環境教育を、土木学会誌 vol.83、p.p.54-56、1998年3月

⁵ 藤岡達也：環境教育に貢献する地学教材開発の視点、地学教育第49巻3号、p.p.85-93、1996年

⁶ 荒川知水資料館を拠点とした総合的な学習、第1回川に学ぶ体験活動発表交流会・発表資料集、p.p.16-19、2001年10月

教育関係者のニーズ把握による河川を利用した総合的な学習における河川関係者等の役割について*

花岡 史恵**、澤田 俊明***、上月 康則****、山中 英生*****、湯佐 昭二*****

本研究では、吉野川をフィールドにした「川と学び社会」実現に向けての情報および人的交流の場として企画開催された、教育関係者・河川関係者等の連携による一連の学習交流ワークショップを通して、今後の河川利用における河川関係者および大学関係者を含む専門家等の役割についての考察を行った。それらの経過を考察することにより、河川を利用した「総合的な学習」における教育関係者の課題とニーズを把握し、今後の河川を利用した総合的な学習において、河川関係者および専門家等による河川情報の提供や学校教育との連携を寄与した活動等の策定が必要であることが分かった。

A study about the role of the persons in "The Periods for Integrated Study" which used the river at the case of the case of the needs of the school persons concerned *

By Fumie HANAOKA Toshiaki SAWADA Yasunori KOZUKI Hideo YAMANAKA Syouzi YUSA

In this paper, considered the role of the university persons concerned, the river persons concerned, the educational persons concerned, or a specialist carefully. It was considered by "the series of the study exchange WS", and it elaborated the plan and was held by the educational persons concerned and the river persons concerned. A study grasped the theme and necessity for "The period for Integrated Study" for having used the river. And it becomes clear that the school staff needs the information about the river which the river persons concerned and the specialist have by it.